

# 文学館だより

令和 4年 8月 1日  
若山牧水記念文学館  
TEL 0982 - 68 - 9511  
文 責 日 高

台風5号の影響で、月末は激しい風雨でした。詳細は後述のとおりですが、牧水が好んだ雨の坪谷を日々味わえていることが何と贅沢なことかと、あの日以来、私の中で「雨」の認識が少し変わった気がしています。

## 「みなと」展 開催中

先月号で紹介した牧水・短歌甲子園 OBOG 会「みなと」の詠草が届きました。文学館ギャラリーにて「みなと」展 開催中です。

### 題詠 「空」

花衝羽根空木は爆ぜしさまに咲き差し色が火のいろをしている  
インターン選考打率一割を切って遠のく夏の空  
星々の下で寝そべる 空腹は身体の真中に広がる空だ  
海となり故郷に帰る その日まで空飛ぶ鳥のように真っ直ぐ  
初夏の空前絶後の君と僕 歯磨きしたら駅まで走る  
屈折率が大きいくらいに青くなる空の矛盾を忘れたくない  
青感帯(せいかんたい)は指先いつもそこにある空には未だ手が届かない  
ギリシャ語の「幸せ」を名にもつ愛馬夢を背負って夏空へゆく  
東京の空を散りゆく花びらの一枚として飛行機はゆく

狩峰 隆希  
宮本 陽香  
久永 草太  
甲斐いづみ  
甲斐いづみ  
海老原 愛  
海老原 愛  
後藤 匠人  
後藤 匠人

### 自由詠

雲のうちより湧く雲みえてあかねさすばいばいきんは別れの言葉  
君だけの海になりたい胸元に静かな息を抱き締めるとき  
梅雨明けの早かったことを話しおり夏が小説なら一行目  
右頬にニキビが1つ残業のブルーライトに照らされており  
形而上概念的な愛よりは皿を洗って仕舞ってほしい  
雨の色は何色だろう逃げられぬ夜雨へ補色の傘を差したい  
光りたい来世くらいは君のその銀のピアスに生まれかわって  
ベンチから別のベンチへキャンパスのひとりぼっちの鳩になる春  
急行の起こした風の吹き付ける無人のホームにま

狩峰 隆希  
宮本 陽香  
久永 草太  
甲斐いづみ  
甲斐いづみ  
海老原 愛  
海老原 愛  
後藤 匠人  
後藤 匠人

狩峰 隆希さんは、牧水・短歌甲子園 第5回、第6回大会に出場しました。  
宮本 陽香さんは、牧水・短歌甲子園 第8回、第9回大会に出場しました。  
久永 草太さんは、牧水・短歌甲子園 第6回大会に出場しました。  
甲斐いづみさんは、牧水・短歌甲子園 第5回大会に出場しました。  
海老原 愛さんは、牧水・短歌甲子園 第2回、第3回大会に出場しました。  
後藤 匠人さんは、牧水・短歌甲子園 第9回、第10回、第11回大会に出場しました。

### 移動展

8月20日(土)～21日(日) 日向市中央公民館  
第12回牧水・短歌甲子園会場

8月22日(月)～30日(火) 日向市役所口ビー



3年ぶりに会場開催となる第12回牧水・短歌甲子園。過去最多30校60チームの応募の中から12校が本戦出場の切符を手に入れました。県内からは4校が出場します。  
宮崎県立宮崎商業高等学校 (本戦10回出場)  
宮崎県立宮崎西高等学校 (本戦10回出場)  
延岡学園尚学館高等部 (本戦9回出場)  
宮崎県立富島高等学校 (本戦6回出場)

牧水・短歌甲子園、ならびに「みなと」展  
たくさんのご来場をお待ちしております

## 第26回若山牧水賞受賞者 黒瀬珂瀾さん来訪

7月18日(月) 第26回若山牧水賞授賞式、受賞祝賀会  
19日(火) 日向市にて受賞記念講演会  
20日(水) 宮崎県立延岡高等学校訪問

このハードスケジュールの合間を縫って、文学館、牧水生家にお越しくださった黒瀬珂瀾さん。毎年、受賞者と共においでくださる大口玲子さん(第17回若山牧水賞受賞、宮崎市在住)と今年は伊藤一彦先生(文学館館長)もお迎えすることができました。



ゆっくりすることも許されず、早々に受賞歌集にサインを、色紙に1首いただきました(写真)。できあがり次第、展示室の黒瀬さんコーナーに設置(写真)。見学の際には、「えっ、今、書いたもの?」と皆さんを驚かせ、黒瀬さんご本人に立っていただき記念撮影をしたり、和やかな一場面でした。歴代受賞者の色紙の前で時折足を止めて見入る姿が印象に残っています。



牧水常設展示室では、ゆっくり牧水と向き合う姿があり、気軽に声をかけられない空気が漂っていました(写真)。

文学館から牧水生家へ移動し、生家2階から坪谷の景色を眺める伊藤先生と黒瀬さん(写真)。



牧水生家に立ち、雨と坪谷川のせせらぎを体感した黒瀬さんはこう言われました。

「牧水が『水』とつけたことがわかるような気がする。」

「活字ではわからない。ここに来て、この景色を見て、牧水の歌がよりわかる。」と。

約130年前の牧水(繁)と同じ場所に立ち、湧き出る思いがあったのでしょうか。牧水生家での黒瀬さんの言葉が胸に刺さりました。

5ヶ月延期の末、ようやく実施の運びとなった若山牧水賞授賞式。「海の日」の7月18日は、なんと牧水第1歌集『海の声』の出版日と重なるとのこと。牧水先生の優しいまなざしが目に浮かぶようです。

後日、同行された大口玲子さんから、「坪谷川のせせらぎ、雨の坪谷...とてもよかったです。」と便りが届きました。

### 牧水先生の一首

折に触れて出会う一首を紹介しています

#### けふもまたころの鉦をうち鳴しうち鳴しつつあくがれて行く

黒瀬珂瀾さんの若山牧水賞受賞歌集『ひかりの針がうたふ』に詠まれているお子さんから、パパ黒瀬さんへお祝いのメッセージが披露された。その全文を紹介する。

お父さん、ぼくすい賞おめでとうございます。私はお父さんのことを自慢に思っています。私は生活感のある歌が好きです。特に私が好きな歌は、『ひかりの針がうたふ』の「やねのおかういつちやつたね、と手を振る児よ父に飛行機はまだ見えてみて」という歌です。理由は、お父さんと私の見え方に差があるけれども、見ているものは同じということが分かる歌だからです。私は、ぼくすいの歌では「けふもまたころの鉦を打ち鳴しうち鳴しつつあくがれて行く」という歌が好きです。この歌は、新しい世界を求めているという内容の歌なのかなと思いました。お父さんよりもずっと歌が上手だなと思いました。そんなぼくすいの賞を、お父さんが取るとは思いませんでした。びっくりしました。お父さんはお仕事の都合でいま富山に住んでいて、私は大阪に住んでいます。短歌でいそがしいのはいいけれども、お父さんと遊びたいので、もっとひんぱんに来てほしいです。私は、お父さんにこれからも歌を書いてほしいと思います。

第26回若山牧水賞レジメより